

Web 版図書館 NEWS

1月号



あけましておめでとうございます。新学期が始まりました。昼休みの図書館は、たくさんの生徒でにぎわっています。

今号では9月の文化祭での図書カフェ、11月に行った図書フェスパート2とビブリオバトル京都大会・関西大会のご報告、1年生全員が取り組んだビブリオバトルやクリスマスコンサートの様子などをご報告します。お楽しみください！





文化祭初日の昼、図書カフェをオープンしました！



みんなの前でPR。



オープンを待つお客さん。



オープンしました！



図書委員が注文を聞きます。



お茶とお菓子を選べます。



お弁当も持ち込みOKです。



奥まで人がぎっしりです。



パフォーマンスが始まります。



合唱部の美しい歌声。



ダンス部の華麗なダンス。



有志のパフォーマンス。



図書委員によるクイズ。

毎年恒例の図書カフェには、今年も300人以上の生徒や保護者が訪れ、お茶とお菓子のサービスと生徒によるパフォーマンス、図書委員によるクイズなどをみんなで楽しみました。

図書委員のスタッフの感想も、「楽しかった！」「たくさんの人に来てもらって、楽しんでもらえて良かった」「ウェイター係で、普段交流できない人たちともたくさん交流を持つことができた」「やりがいを感じた」など、図書カフェを心から楽しめたようです。



第5回全国高校ビブリオバトル京都大会・ビブリオバトル

in 大阪に向陽高生が出場しました！

11月3日（土）に行われた第5回全国高等学校ビブリオバトル京都大会に、本校2年1組中村玲さんと、3年5組中村珠利杏さんが出場しました。中村玲さんは予選を突破し決勝に進みましたが、惜しくも敗れました。

3年の中村珠利杏さんは、翌11月4日に行われた全国高等学校ビブリオバトル2018 in 大阪にも出場しました。前日の京都での発表をさらに力強いものにし、入賞はしませんでしたでしたが、健闘しました。



京都大会終了後の2人



図書フェスパート2を実施しました！

秋の読書週間にあわせて、11月2日（金）～9日（金）の期間、図書委員会主催の図書フェスパート2を実施しました。新企画「ぐりとぐらのカステラ作り」や「本カルタ」、「栞作り&漫画のセリフあてクイズ」、や人気の「図書パフォ」など、期間中のほぼ毎日企画があり、図書館がにぎわいました！

ぐりとぐらのカステラ作り—絵本『ぐりとぐら』の中のカステラをみんなで作ってみました！



材料を混ぜ合わせて…



型に入れて、オーブンへ。



ふくらんでいます。



おいしそうに焼けました！



切り分けてトッピング。



楽しくいただきました！

葉作り&クイズ大会—雑誌の切り抜きや、色紙などで自作した葉を、その場でラミネート加工する企画と、漫画に関するクイズ大会を昼休みに行いました。どちらも好評でした！



葉作りに参加する生徒。



初企画ですが、人気でした！



漫画のセリフあてクイズ。

本カルタ大会—司会者が小説の題名を読み上げ、参加者はその作者の名前のカルタを取るというゲームです。昼休みに3つのテーブルで行いました。



緊迫した雰囲気。



結構本気。



取れた時は本当にうれしそう。

図書パフォー—図書館での生徒によるパフォーマンスを行いました。

250人以上の来場者があり、図書館は熱気に包まれました。合唱部の美しい歌声に始まって、3年生の有志2組による歌声に、会場は大盛り上がりでした。



3年生の来場が特に多かったです。



1年生全員が授業でビブリオバトルに取り組みました！

—今年度は1～3年生までの全生徒が、授業の中で図書館を使ってビブリオバトルに取り組みます。1年生は12月の期末試験後に取り組みました。各クラスとも熱戦で、素晴らしい闘いになりました。



3分間で本を紹介します。
先生が見本を見せます。



2分間、みんなから質問を受けます。

5人ずつ8班に分かれて班でのバトルを行い、そこで選ばれた本を紹介した人が、クラス決戦に出場しました。質問の時間が盛り上がりました！



クリスマスコンサートを実施しました

12月17日昼休み、図書館でクリスマスコンサートを開催しました。温かな雰囲気の中、生徒たちの心のこもったパフォーマンスが繰り広げられ、素晴らしいひとときになりました。生徒たちの笑顔をご覧ください。



司会は図書委員がつとめました。



吹奏楽部によるクリスマスソングの演奏。



合唱部による清らかな歌声。



ダンス部によるパフォーマンス。



息をのむ生徒たち。



最後まで魅せてくれました。



司書のお薦め本

『日日是好日』 森下典子著 新潮文庫 550円

ちょっとしたきっかけで始めたけれど、折に触れ、やめたいやめたいと思ってきた「お茶」。20年以上つかず離れず関わってきた「お茶」が、いつしか自分を支え成長させてくれていること、また「今この時を生きる」というお茶の本当の意味に、著者が気づく瞬間の描写が圧巻です。

題名の『日日是好日』とは、「天気の日も雨の日もすべて、いい日」という意味だそうです。「お茶」をすすめる本ではないのですが、読んだ後「お茶」をやってみたくなるかもしれません。



それではまた、次回のWEB版図書館NEWSをお楽しみに！